

大雪山の火山活動解説資料（平成24年7月）

札幌管区气象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成19年12月1日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①、図2～4）

旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上100m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

20日に国土交通省北海道開発局の協力を得て、上空からの観測を実施しました。御鉢平では噴気及び地熱域は認められず、前回（2011年9月）と比べ特段の変化はありませんでした。なお、旭岳地獄谷爆裂火口の状況は雲のため確認できませんでした。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

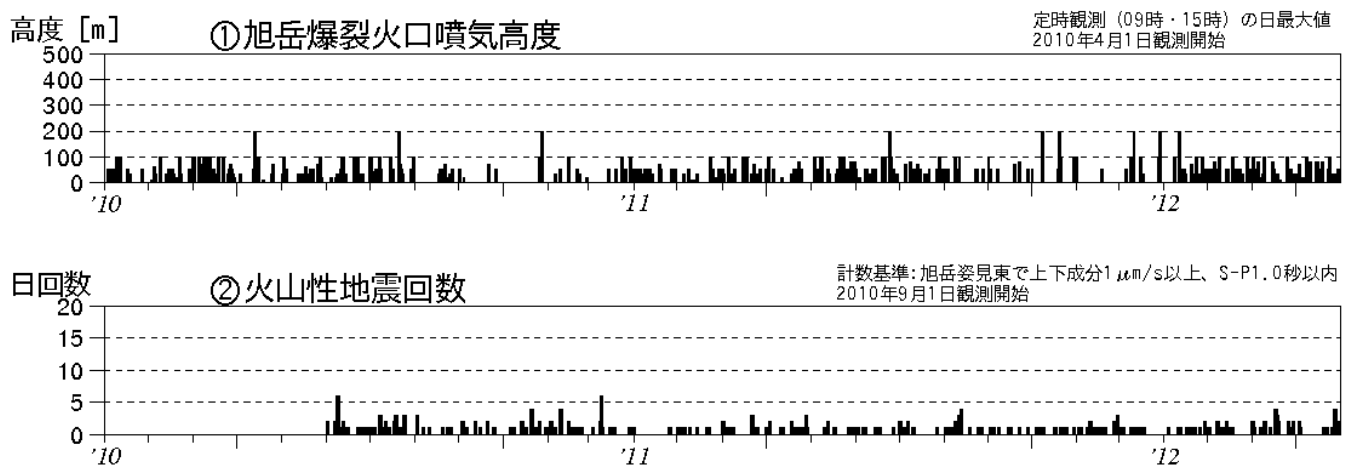


図1 大雪山 火山活動経過図（2010年4月～2012年7月）

この火山活動解説資料は札幌管区气象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。

次回の火山活動解説資料（平成24年8月分）は平成24年9月10日に発表する予定です。



図 2 大雪山 旭岳西側の状況（7月11日、忠別湖東遠望カメラによる）
白丸内は旭岳地獄谷爆裂火口の噴気



図 3 大雪山 御鉢平の状況
（7月20日 図4-①より撮影 国土交通省北海道開発局の協力による）

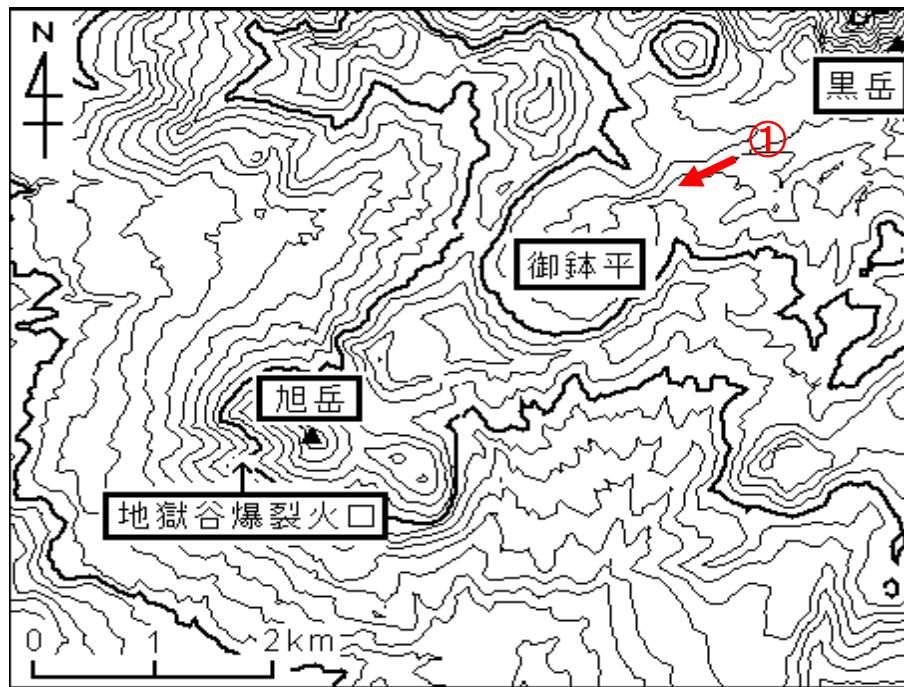


図 4 大雪山 周辺図
（矢印は写真（図 3）の撮影方向）

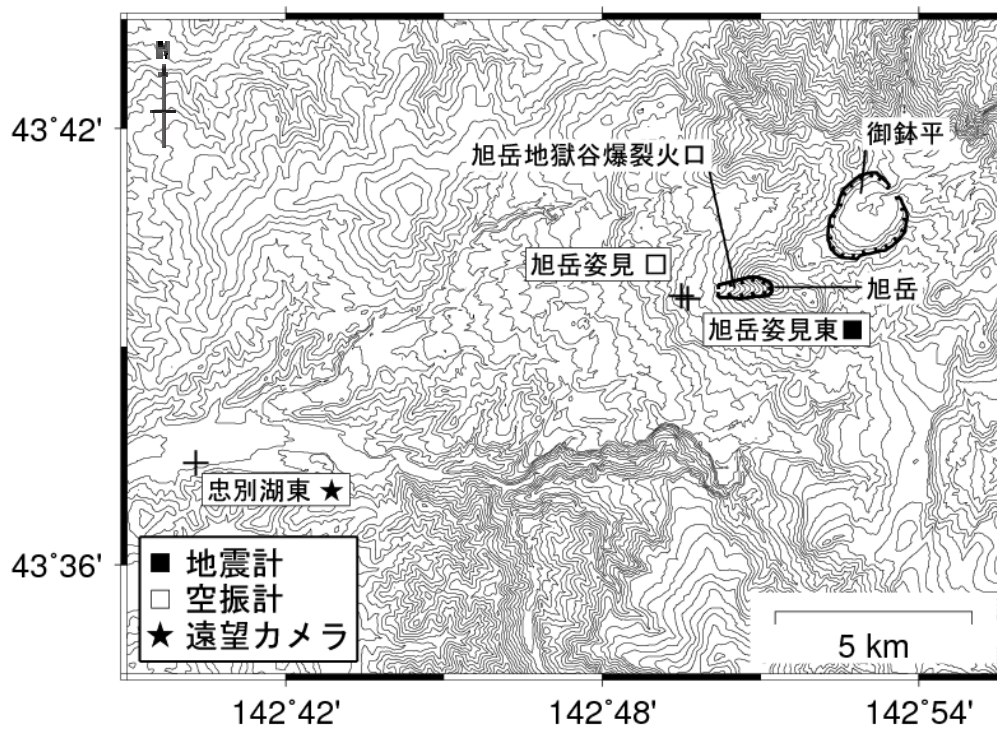


図 5 大雪山 観測点配置図
+は観測点の位置を示します